

自画撮り被害防止スマホアプリ「コドマモ」普及促進モデル事業アンケート結果報告

令和 5 年 12 月 4 日

藤田医科大学

村川 修一

<経緯と概要>

令和 5 年 7 月から 9 月末まで約 3 ヶ月間、愛知県警察本部少年課と藤田医科大学が連携して、長久手市立中学校 3 校（生徒数約 2,000 名）をモデル校に選定し中学生とその保護者を対象とした自画撮り被害防止スマホアプリ「コドマモ」（以下、「コドマモ」）を試用いただく実証試験を行った。

今回の実証試験は、生徒の性被害防止の重要性から、産・学・官の連携した取り組みにより研究試行を重ねて完成したアプリ「コドマモ」のさらなる普及促進を図るため、一自治体をモデル地区に選定し、地区内中学校の家庭において一定期間アプリの使用を推奨し、その期間終了後にはアンケートを実施・集計した。これにより、コドマモの有用性や親子間での意識のギャップなど実態を明かしたうえで、アプリの改良・機能追加等についての意見を集約して、コドマモの成長・普及へとつなげるという趣旨及び目的で行った。

今回の長久手市での実証の実施期間終了後に受領した Web アンケートを集計して効果の検証を行った。アンケートへの回答人数は、【中学生】は 1,522 名で、【保護者】が 371 名（11 月 29 日の集計時点）であった。今回のモデル事業をきっかけに、今後、他の地域でもアプリの普及促進を図り、広く社会への周知によって性被害防止につなげていきたい。

<結果報告のまとめ>

1. 中学生のスマホ等の利用実態について

1) 長久手市内中学生のスマホ等の所有率は 89.5%で、全国平均の 86.6%（内閣府による調査、2022 年）を上回っている。

2) 1 日のスマホなど機器の使用時間は、過半数 (53.6%) が 3 時間以上、約 1 割 (9.3%) は 6 時間以上であった。[1.1) 使用時間および夜間の使用 結果より]

3) 夜間の使用では、半数近く (43%) が 22 時以降、約 1 割 (10.3% (1 時まで、2 時まで、2 時以降の合計)) が 24 時以降の深夜でもスマホ等の機器を使用していることが分かった。[1.1) 使用時間および夜間の使用 結果より]

4) また、保護者の認識する中学生の1日あたりのスマホ使用時間と時間帯には、実態とギャップが見られ、6時間以上の使用と思っている保護者は5.4%だが、中学生の回答は9.3%で、夜間の使用では、24時以降の使用について、約10%の中学生が使用していると回答しているのに対して、そう認識している保護者は3.5%であった。中学生は、保護者の認識よりも若干長く、遅い時間帯までスマホを使用していることが分かった。[2.1) こどもの使用時間および夜間の使用について 結果より]

2. SNS等による性犯罪リスクやトラブルの実態について

1) LINE や SNS などネット上で「怖い思い・いやな思いをした」経験のある中学生が121名(8%)おり、「自分の裸や下着姿の写真を送るように言われた」中学生、すなわちSNS性犯罪のリスクに直面した者は27名(1.8%)いる実態が判明した。「怖い思い・いやな思いをした」具体例としては「全く知らない人から電話がきた」「男子の性器の写真が送られてきた」「SNSで見知らぬ人がフォローをしてきて、闇バイトみたいな内容だった」「闇バイトを広めるような人からフォローされた」「個人情報バラすと言われた」など想像以上に危険な内容を含んでいた。また、自分の裸や下着姿の写真を要求した相手は、「知らないおじさん」「多分、大人の男性」「元カレ」「同級生」「学校の人」「インスタでフォローしてきた人」「外国人」などであった。

[1.4) 一定数の被害者がいる実態 結果より]

2) インターネット上で知らない人とメッセージをやり取りした経験が「ある」と回答した中学生は369名(24.2%)であったが、保護者の認識は、「あると思う」が77名(20.8%)で保護者の想定よりも若干多くの中学生がネット上で知らない人とやりとりをした経験があることが分かった。また、「自分の裸や下着姿の写真を送るように言われた」経験は中学生の実態とほぼ同程度であったが、「怖い思い・いやな思いをした」、「SNSなどネット上でいじめやトラブルに遭ったり、目撃したことがある」については、逆に保護者の方が「あると思う」と予想した割合が高かった。[2.2) こどもの性被害経験の有無について、3) いじめや人間関係のトラブルに遭ったり、目撃したことがある 結果より]

3) スマホ等の利用で学校から使い方や注意すべき点を教わったか?との質問に、約4割(38.7%)の中学生が「なかった・覚えていない」と回答。同じく、中学生が保護者から受けた注意の大半は、スマホの長時間使用と回答。つまり、性犯罪や特殊詐欺などに関しては、中学生は学校と家庭のいずれからも教育周知が十分でない実態が分かった。[1.2) スマートフォンなど利用で学校から教わった認識 結果より]

4) 性被害などトラブルに遭った際は、誰に相談するか?という質問では、保護者の回答では「親に相談すると思う」が72%に対して、中学生で「親に相談する」という回答は21%と極めて低く、親子間の認識で大きなギャップがみられた。また、「(被害を)相談していない」と回答した中学生は36.8% (21件/全回答数57件)であり、友達43.9% (27件/全回答数57件)の次に多い結果であった。実際に性被害等トラブルに遭った際の適切な相談窓口として学校や家庭以外にも、様々な受け皿を用意しておく必要性が考えられる。[2. 4) 性被害などのトラブルに遭った際の相談相手 結果より]

3. アプリの使用と今後への期待について

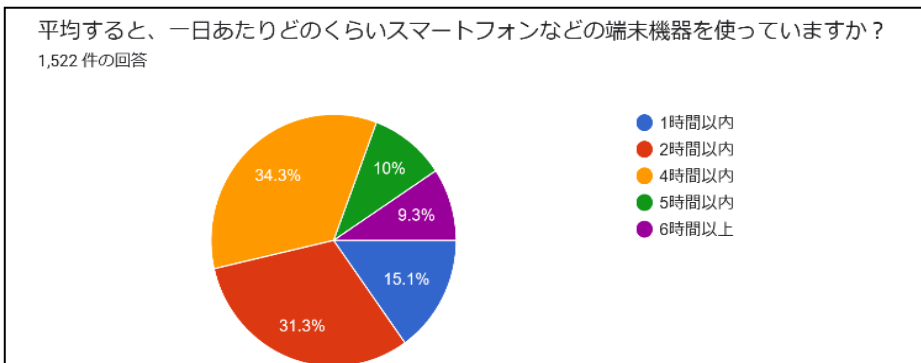
1) 上記の様にLINEやSNSなどのインターネット上で実際に「怖い思い・いやな思いをした」経験があると答えた中学生のうち、「コドマモ」を利用した3人に2人(66.7%)が「コドマモは、わいせつ画像の送受信に関する犯罪に巻き込まれないことに役立つと思うか?」の質問に「役立つと思う」と回答。また、中学生からの要望では「(他人からSNS等で)悪口を送られないようにしてほしい」「危険なサイトを開いたときに保護者(のスマホ)に連絡がくるようにしてほしい」などの意見が得られた。

2) 「コドマモ」を利用した保護者のうち48%は「アプリに使いにくいところはなかった」と回答。「子供の位置がシンプルによくわかったのと怪しい画像と出た時に子供が相談にきてくれた」「スマホを安心して持たせられる」「(他人に)送ってもいい画像か相談出来るようになった」など好意的な意見が得られた。一方で「精度を上げてほしい」、「電池の消耗を減らしてほしい」など要望があり、今後、改善を要する。

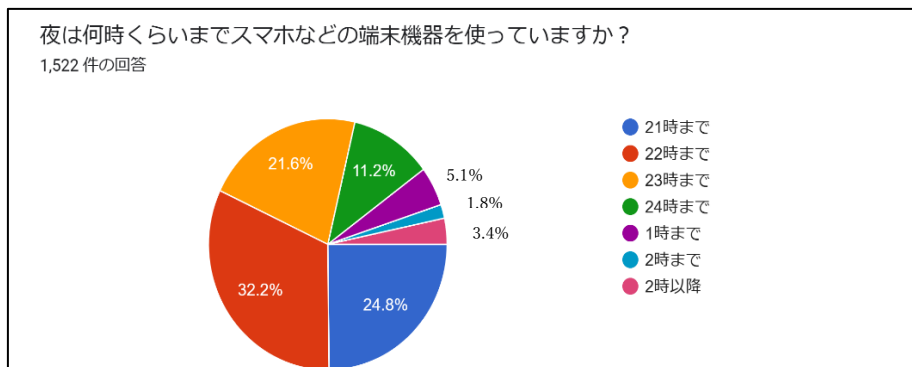
<アンケート結果の詳細>

1. 中学生からのアンケートで分かったこと

1) 使用時間および夜間の使用

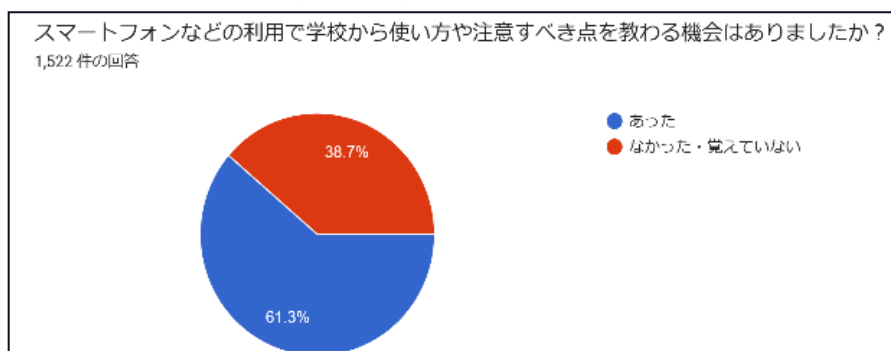


アンケート結果によると、中学生のスマートフォンなどの端末機器の使用は3時間以上が過半数（53.6%）で、6時間以上の使用も約1割（9.3%）であった。



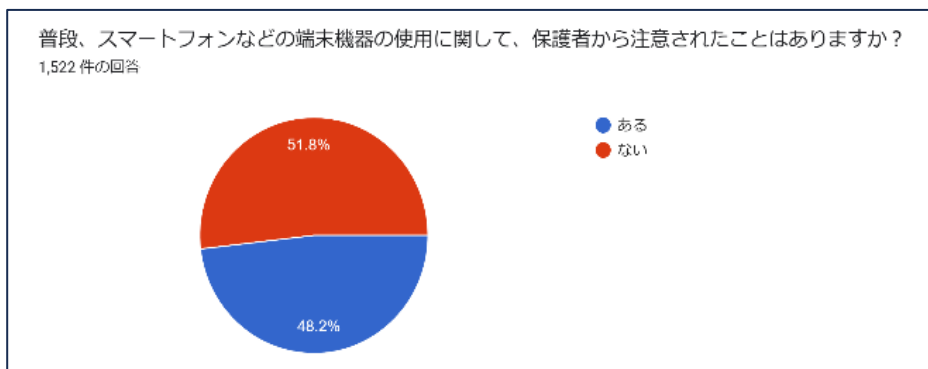
中学生の半数近く（43%）が22時以降も使用している。そして、約10%が24時以降の深夜も使用している。

2) スマートフォンなどの利用で学校から教わった認識



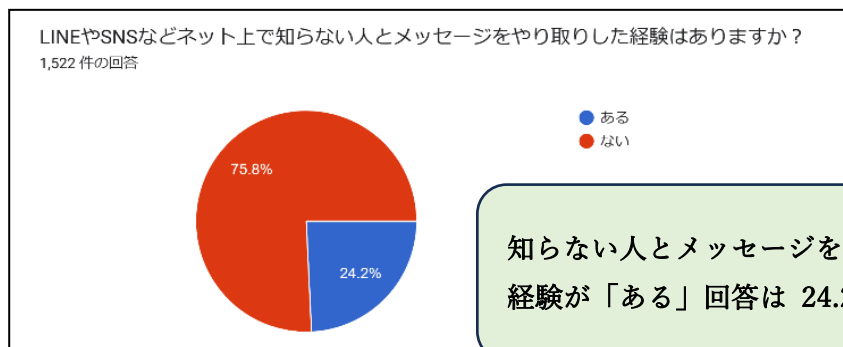
「(教育が) あった」と回答した中学生は61.3%にとどまり、約4割は、「なかった・覚えていない」と回答。学校が教えているか否かに関係なく、現実として、中学生の約4割が理解していない実態が分かった。

3) 保護者から使用に関して注意されたこと

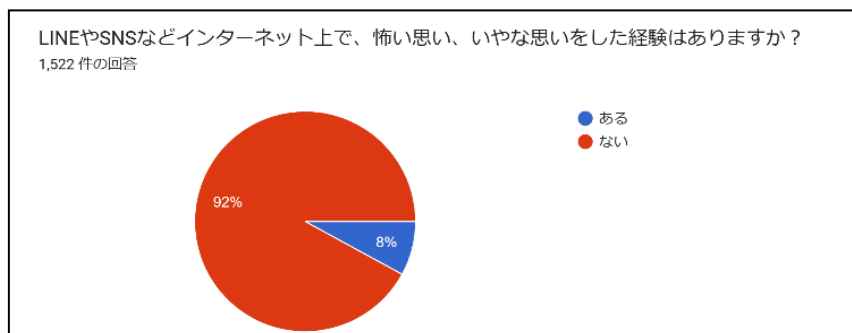


「保護者から使用に関して注意されたことはありますか？」との質問に「ある」と回答した中学生は 48.2%。「ある」と回答した中学生に注意された内容を聞いたところ、大半はスマホの長時間使用に関する注意であり、性犯罪や特殊詐欺などへの注意が十分にされていないことが分かった。

4) 一定数の被害者がいる実態



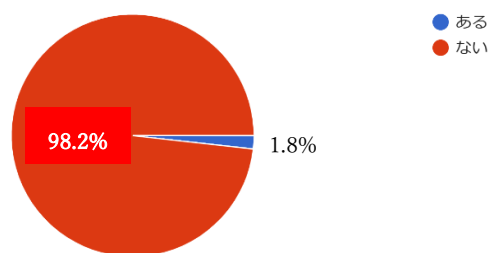
知らない人とメッセージをやり取りした経験が「ある」回答は 24.2% (369 名)



LINE や SNS などインターネット上で、怖い思いや嫌な思いをした経験が「ある」回答は 8% (121 名)、「ある」と回答した中学生は 121 名で、具体例としては「全く知らない人から電話がきた」「男子の性器の写真が送られてきた」「SNS で見知らぬ人がフォローをしてきて、闇バイトみたいな内容だった」「闇バイトを広めるような人からフォローされた」「個人情報バラすと言われた」など想像以上に危険な内容を含んでいた。

LINE や SNS などインターネット上で自分の裸や下着姿の写真を送るように言われた経験はありますか？

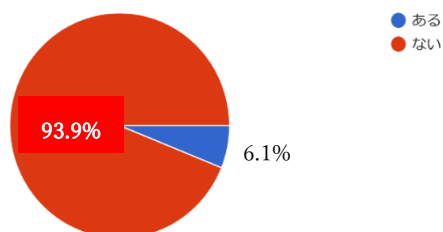
1,522 件の回答



「LINE や SNS などインターネット上で自分の裸や下着姿の写真を送るように言われた経験はありますか？」の質問に「ある」と回答は 1.8%（1,522 名中で 27 名）
「誰から言われたのか？」の回答は、「知らないおじさん」「多分、大人の男性」「元カレ」「同級生」「学校の人」「インスタでフォローしてきた人」「外国人」など。

LINE や SNS などネット上で、いじめや人間関係のトラブルに遭ったり目撃したことはありますか？

1,522 件の回答



LINE などのネット上でいじめや人間関係のトラブルに遭ったり、目撃したりした経験が「ある」と 6.1%（93 名）の中学生が回答。
具体的な事例としては、「グループ LINE で死ねなどの暴言を吐かれた」「グループラインから削除された」「誹謗中傷された」「下半身（の写真を）送ってきた」など。

※ 上述の通り、中学生のスマホなど長時間使用、心身の健康と発達に影響が懸念される深夜までのスマホ使用の実態が分かった。また、中学生が LINE や SNS 等によって、性犯罪だけでなく闇バイトなど特殊詐欺、いじめなどトラブルに遭う経験を有している実態が調査結果で分かった。

（以上が、中学生の回答）

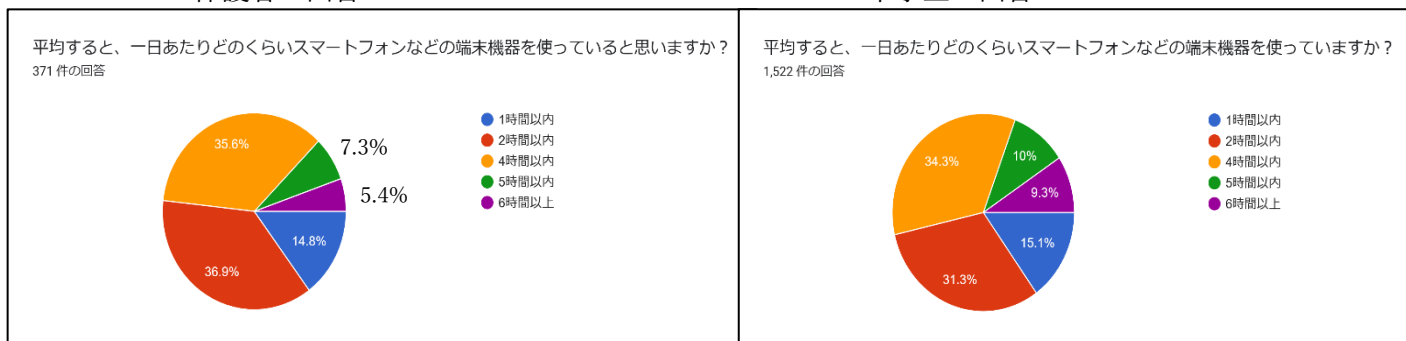
2. 保護者からのアンケートで分かったこと

(※保護者には「お子さまについてどう思われるか?」を質問。保護者からの回答では、適宜、中学生の回答と対比しながら考察する)

1) こどもの使用時間および夜間の使用について

保護者の回答

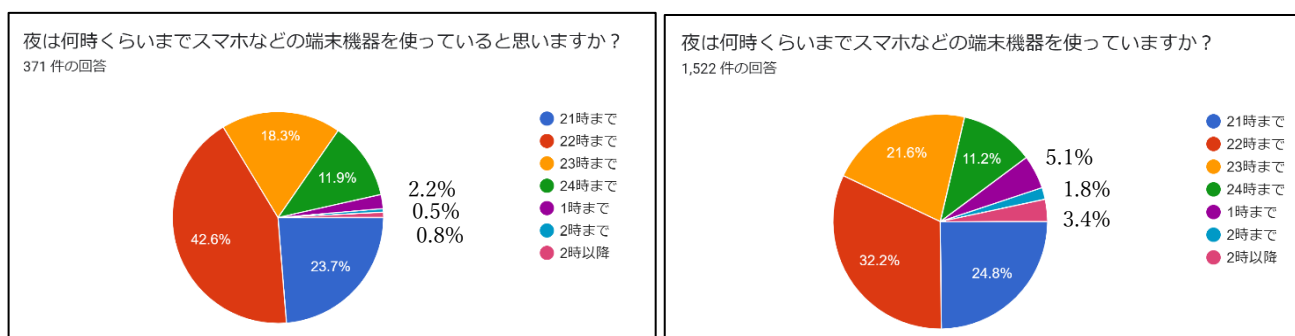
中学生の回答



1時間以内の使用は同率の約15%であった。2時間以内の使用だと回答している保護者は51.7%であったが、実際の中学生の回答は46.4%であった。また、6時間以上の使用と思っている保護者は5.4%だが、中学生の回答は9.3%であるなど、親の認識と中学生の実態にギャップも見られた。

保護者の回答

中学生の回答



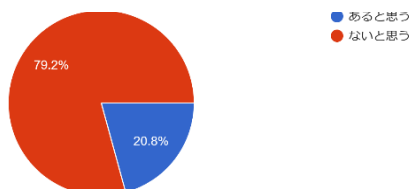
夜間の使用では、22時や24時までの使用は、保護者と中学生の回答はほぼ同じ。一方、24時以降の使用について、約10%の中学生が使用していると回答しているのに対して、そう認識している保護者は3.5%で、親子間でギャップがみられた。

2) こどもの性被害経験の有無について

保護者の回答

LINE や SNS などインターネット上で知らない人とメッセージをやり取りした経験はあると思いますか？

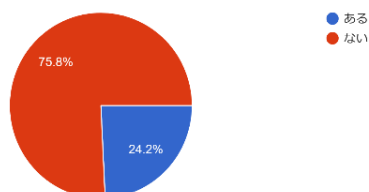
371 件の回答



中学生の回答

LINE や SNS などインターネット上で知らない人とメッセージをやり取りした経験はありますか？

1,522 件の回答

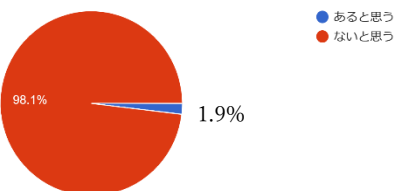


知らない人とメッセージをやり取りした経験が「ある」と回答した中学生は 369 名 (24.2%) であったが、「あると思う」と回答した保護者は 77 名 (20.8%) で、保護者の認識よりも若干割合が高いことが分かった。

保護者の回答

LINE や SNS などインターネット上で自分の裸や下着姿の写真を送るように言われた経験があると思いますか？

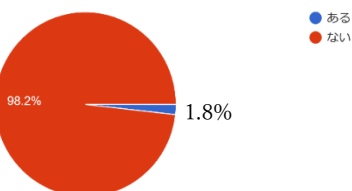
371 件の回答



中学生の回答

LINE や SNS などインターネット上で自分の裸や下着姿の写真を送るように言われた経験はありますか？

1,522 件の回答



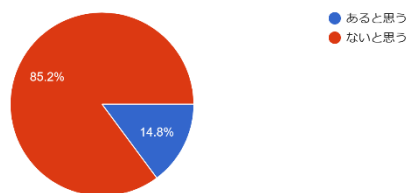
「LINE や SNS などインターネット上で自分の裸や下着姿の写真を送るように言われた経験があると思いますか？」との質問に対して、「あると思う」と回答した保護者は 7 名 (1.9%) であったが、実際に「ある」と回答した中学生は、27 名 (1.8%) であった。約 2% の中学生が性的な画像を要求された経験があることが明らかになった。

3) いじめや人間関係のトラブルに遭ったり、目撃したりしたことがある

保護者の回答

LINEやSNSなどネット上で怖い思いや嫌な思いをした経験があると思いますか？

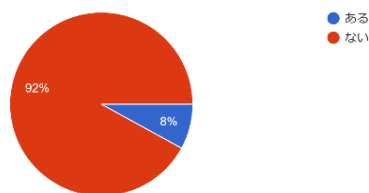
371 件の回答



中学生の回答

LINEやSNSなどインターネット上で、怖い思い、いやな思いをした経験はありますか？

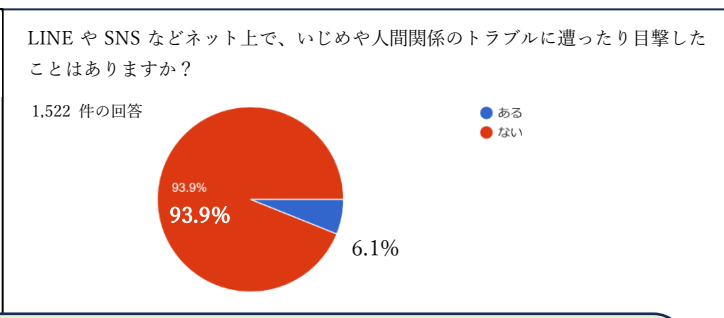
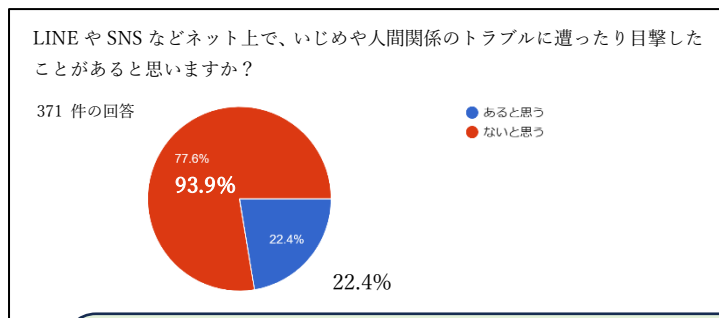
1,522 件の回答



「LINE や SNS などネット上で、怖い思いや嫌な思いをした経験があると思いますか？」との質問に対する保護者の回答は 14.8% (55 名) で、「ある」と回答した中学生の 8% (122 名) よりも高かった。

保護者の回答

中学生の回答

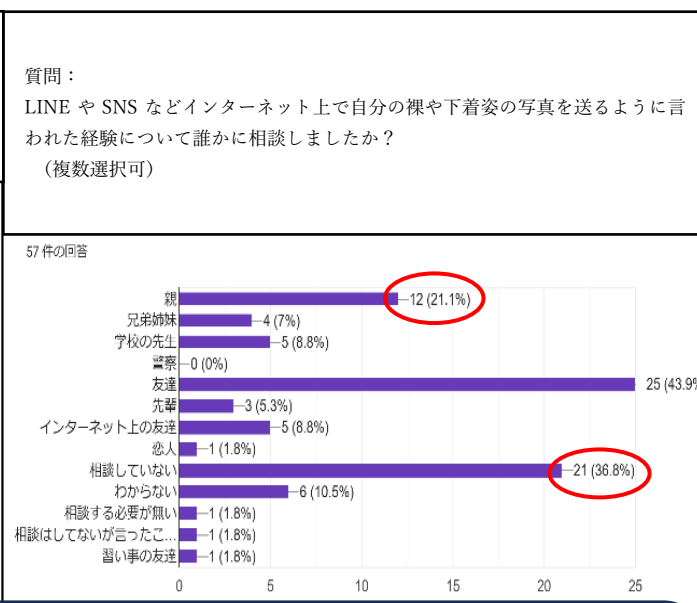
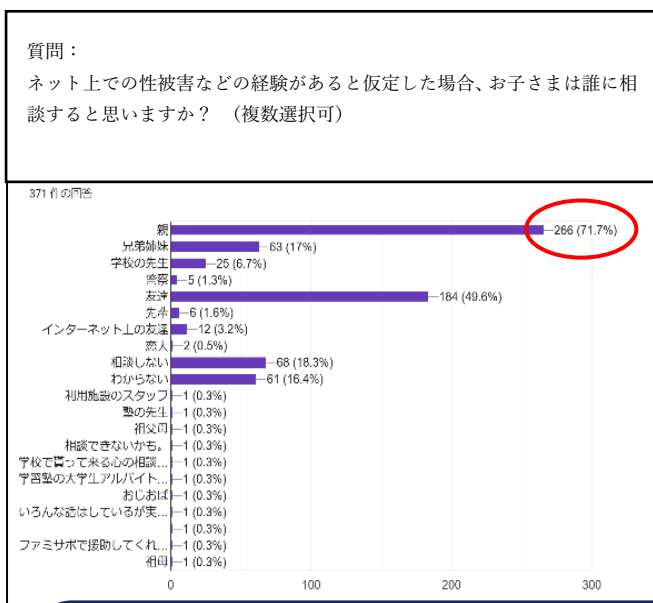


「いじめや人間関係のトラブルに遭ったり、目撃したりしたことがあると思いますか？」との質問には、「あると思う」と回答した保護者の人数は 83 名（22.4%）で、「ある」と回答した中学生の人数とほぼ同数の 93 名（6.1%）であった。

4) 性被害などのトラブルに遭った際の相談相手

保護者の回答

中学生の回答



「インターネット上で性被害などのトラブルに遭った際は誰に相談するか？」の質問に対して、保護者の回答は「親に相談すると思う」が約 72%（266 名）であるのに対して、中学生の「親に相談する」という回答は約 21%（12 名）と低かった。また、「相談していない」と回答した中学生は 36.8%（21 名）であった。

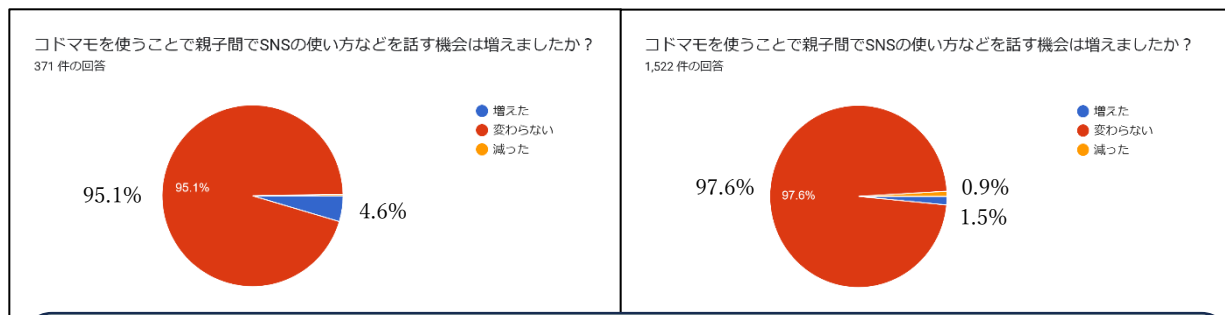
（以上が、保護者からの回答）

3. アプリの使用と今後の課題について

1) コドマモの使用による親子間のコミュニケーション

保護者の回答

中学生の回答

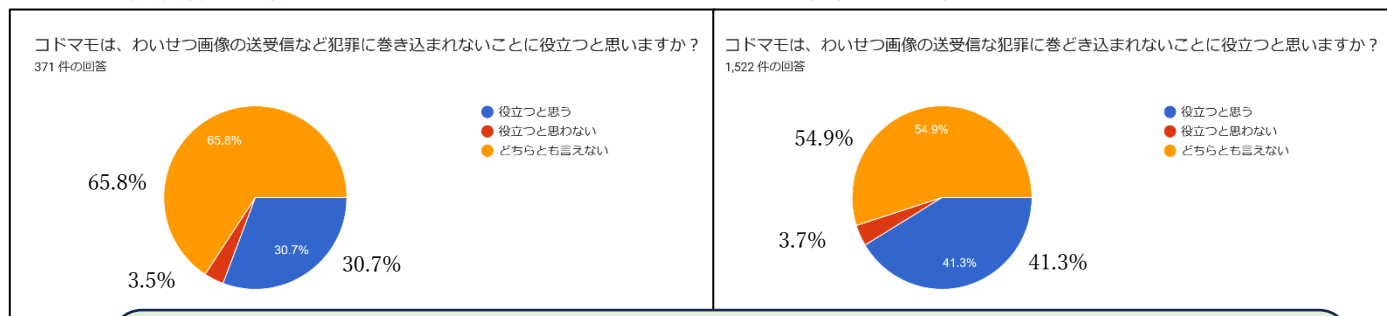


「コドマモを使うことで親子間での SNS の使い方などを話す機会は増えましたか？」との質問に対して、「増えた」と回答した中学生は 1.5%（23 名）であったが、保護者の回答は 4.6%（17 名）と低い数値であった。

2) コドマモの有効性

保護者の回答

中学生の回答

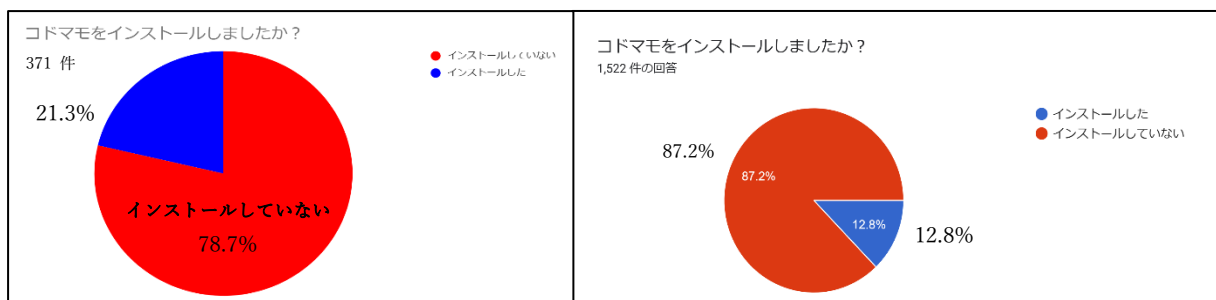


「コドマモはわいせつ画像の送受信などの犯罪に巻き込まれないことに役立つと思いますか？」との質問に対して、中学生からの「役立つと思う」との回答は 41.3%であった。一方で、保護者からの回答は 30.7%と低い数値であった。

3) 「コドマモ」アプリのインストール

保護者の回答

中学生の回答



「コドマモをインストールしましたか?」の質問に対する「インストールした」との中学生からの回答は12.8%で、保護者からの回答は21.3%であった。今回の「コドマモ」アプリの試用後のアンケート結果によると、12.8% (195名)の中学生に「コドマモ」のインストールを導けた。

以上

- 本アンケートに関する問い合わせ先：
藤田医科大学 産官学連携推進センター 村川 修一
電話：0562-93-9876、メール：kodomamo@fujita-hu.ac.jp
- 犯罪対策等に関する問い合わせ先：
愛知県警察本部 少年課 少年サポート係 電話：052-951-1611 (代表)
メール：syounen-support@police.pref.aichi.lg.jp
- アプリ「コドマモ」に関する問い合わせ先：
Adora 株式会社 メール：contact@adora-app.com
<https://www.kodomamo.com/>